

インターバンクの声（2016年1月4日）

新年明けましておめでとうございます。

昨年末から年始にかけてのカレンダーが少々意地悪で、金融関係に携わる方々も大晦日と正月三が日の四日間の休日で、直ぐに普段通りの生活が始まっている。個人投資家の方々にとっては、例年だと海外市場が開く2日から新年の初取引が可能なのだが、今年は2日と3日が週末と重なったため、インターバンクも個人の方々の取引も4日からの同時スタートとなった。大晦日31日の海外市場を追いかけていた方々は既に御承知の通り、ちょうど日本時間で新年入りした頃にドル円が120円割れ寸前のレベルまで円買い・ドル売りが進んだ。12月のシカゴ購買部協会景気指数の悪化がドルを売り始めるきっかけになったようだが、少し前に発表されていた新規失業保険申請件数の増加なども伏線となっていたのだろう。相場も薄かったはずで、あわよくば相場をさらに引き下げて120円割れ相場の定着を狙った連中の仕掛けだったかも知れないが、120円でのドル買い圧力を感じたのか大晦日の攻防は一旦終了している。ただ、今週末は早速、米雇用統計の発表も予定されており、年末数日間のような静かな相場とは違った一週間になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。